

ジオパークとしての化石調査と教育普及活動：白山手取川ジオパークの取り組み Fossil investigation and educational activities as a geopark campaign: Hakusan Tedorigawa Geopark.

日比野 剛^{1*}, 長谷川 卓²

HIBINO, Tsuyoshi^{1*}, HASEGAWA, Takashi²

¹ 白山市教育委員会, ² 金沢大学

¹Hakusan City Board of Education, ²Kanazawa University

石川県白山市は2011年9月に日本ジオパークに認定された。ジオパークのテーマは、「山-川-海そして雪 いのちを育む水の旅」である。霊峰白山とその周辺には冬に多量の雪が積もる。白山に象徴される白い雪、その雪が春以降少しづつ融けることで、白山市は水の豊富な地域となっている。その豊富な水の影響により、山から海までに多様な地形と、そのうえに成立する自然と文化が存在する。そのような大地とその成り立ち、そしてこの地域の人の暮らしが、白山手取川ジオパークである。

ジオパークの活動が始まる以前から行われていた、白山市の「ジオ」的な活動として、手取層群の化石調査があげられる。白山市の化石調査の中心的な存在である「桑島化石壁」は、本ジオパークの重要なジオポイントにもなっている。化石調査の歴史は明治時代初期まで遡り、日本の地質学、古生物学発祥の地とも言われる。その成果の社会的普及の場として本ジオパークを活用することが課題である。

学術的に、ジオパークの素材としても重要度の高い桑島化石壁と化石調査であるが、本ジオパークのテーマそのものとの関連性はやや解りにくいようである。しかし逆の視点から見れば、桑島化石壁は、一見地質や地形から遠く感じるテーマである水の旅を、「削?」「運搬」「堆積」のプロセスと関連付けることで、まさに「ジオ」の中心的役割を果たすものであることを理解させる場所となる。眼前に山と川、そして手取川ダム湖が広がることも、このようなストーリー展開には最高である。ジオ味の濃い部分への興味を持たせる導入部としての活用も見込まれる。

地層や化石は、いわゆるジオ的な要素の強い素材である。この要素が強くなると、一般の人には難解と感じ、抵抗が生ずる場合がある。しかし化石に関しては恐竜のイメージもあるためか、抵抗感は少ないようである。化石から地層への誘導は容易で、さらに地層から川の流れ、「水の旅」へと導ける。1億以上も前にその場にあった環境が、化石や堆積物からまるごと復元できる化石壁だからこそ、「豊かな水とそこにできる生態系」のイメージを地層から連想しやすい。

桑島化石壁の化石調査に伴って近年行われてきた事業に、「桑島化石調査隊」がある。桑島化石調査隊は、様々な調査活動と連携して指導を受けながら、生涯学習の場も兼ねたボランティアとして活動している。また研究者による講演会や交流の場を提供して参加者の意識を高めている。近い将来、桑島化石調査隊の中から、古生物・地質の研究者が誕生することも期待される。

キーワード: ジオパーク, 桑島化石壁, 化石調査

Keywords: geopark, "Kuwajima Fossil Bluff", fossil investigation